

共同研究員の公募を行う共同研究について

1. 研究課題

基盤研究 1 定期市からみた地域の生活文化の歴史と多様性に関する研究

<https://www.rekihaku.ac.jp/research/list/joint/2020/teikiichi.html>

2. 研究代表者

千葉県立中央博物館・上席研究員 島立理子

3. 研究期間

令和 2 年 4 月～令和 5 年 3 月（3 年間）

4. 必要とする専門性と役割分担

- ・市と地域や歴史との関係性、市の構造、市で働く人びとなどについて、文化人類学的視点からの研究実績を有する方。
- ・研究会に参加し、上記研究実績に基づいて、新潟・千葉・台湾以外の市や生業、食文化について研究報告し、比較研究に貢献していただける方。

5. 研究目的

日本各地では、資本主義経済のグローバル化や大都市への人口一極集中によって、地域社会の疲弊がおこっている。今、地域社会では、豊かな生活世界を持続的に維持する方策が求められている。その解決策は、地域のなかに自立的な生活文化（経済的、社会的、文化的な循環）をもち、地域ごとの多様性を維持することだと考える。その役割を果たしてきた 1 つが、市・定期市（地域の人びとが中心になりモノを売買し維持・発展させてきた場）だと予測している。

本研究では、人文系、自然史系を含む異なる専門分野の研究者が連携し、①市・定期市に通底する原理と、国と地域ごとの差異を、地域の歴史を絡めながら明らかにする。具体的な調査地として、千葉県（勝浦等）、新潟県（長岡市、新潟市）、台湾（台北市内）の 3 地域を設定し、各地の市と地域社会を比較する。そして、②市を持続的に活用するのに必要な基盤を考察するために、市・定期市の運営、販売商品の内容と流通ルート、売り手と買い手の利用形態の基本的メカニズムを明らかにしつつ、市でモノを売り買いする個人に焦点をあて、個人と市との関係を明らかにする。さらに、③総合的かつ学際的な方法論を編み出すことを目的とし、市を映像として記録するだけでなく、調査者の市における調査方法そのものも映像で記録し、調査の過程を可視化することによって、新たなフィールド調査の方法を編み出す。

6. 研究計画

<令和2年度>

調査地は、新潟県長岡市・新潟市、千葉県勝浦市、台湾台北市の市・定期市である。「市・定期市からみた豊かな生活文化の基盤」をテーマとし、現在の流通システムにない市の存在意義を明らかにする。市に並ぶ農林水産物の背後にある、生産の現場と市との関係性を探ることが、市のもつ、付加価値とは何かを考えることに繋がる。市には、売り手側からみると「定点型（特定の市でしか商品を販売しない）」と「巡回型（開催日が異なる市を巡り販売する）」が存在する。さらに、市ごとに販売する商品の性格が異なる。そして市には、買い手側からみると地域社会型（地元民が日常的に利用）型と観光客型とに分かれると推測している。市が、地域のなかでどのように運営されているか、その基本的なメカニズムを明らかにするため、民俗学、歴史学だけでなく、環境農学、生態人類学、人口学、植物生態学、魚類学など学際的な協業を行う。研究会において調査情報情報を共有し、先行研究の視点も取り入れて各地域の比較研究を進める。

<令和3年度>

調査地は前年と同じである。前年度の調査方法を継続しつつ、さらに定期市と周辺の生業（農業、漁業）との相互の関係性に重点をおき、市でモノを売る個人に焦点をあてる。個人が市とどのように関わってきたのか、個人史を含めて明らかにする。研究会において調査情報情報を共有し、各地域の比較の視点を明確化する。

<令和4年度>

現代の市がもつ健康指向や観光に着目し、地域住民だけでなく、外部との関係性によって、新たな付加価値を生みだしている状況を調査する。地域の歴史、市の歴史を関係づけることで、地域の生活文化の歴史と多様性を明らかにしつつ、各地の市を比較し、その差異を解き明かす。また成果の公開方法を検討する。